



コーディネーターだより No.3



令和4年11月18日(金)

特別支援教育コーディネーター

支援籍学習について

埼玉県では、特別支援学校に在籍する児童生徒が居住地の小中学校に「支援籍」を置いて小中学校で学習したり、小中学校に在籍する児童生徒が特別支援学校に「支援籍」を置いて特別支援学校で学習したりする、支援籍学習の取組を行っています。今回は、その支援籍学習の様子をお伝えします。

本校から居住地の小中学校へ

今年度、支援籍学習を希望しているのは、小学部37名、中学部6名です。一昨年度、昨年度は、直接交流が難しく希望通りにできない状況もありましたが、今年度はほぼ希望通りに直接交流ができています。どの学校でも、学習内容や座席の位置などに配慮をしていただき、本校の児童生徒が友達と関わりながら進んで学習に参加しています。また、友達が筆談や手話、指文字等を使って積極的に話しかけてくれるなど、休み時間も楽しく交流することができています。支援籍学習は、本校の児童生徒にとっては大きな集団で学ぶことができる、相手校にとっては聴覚障害のある児童生徒と直接ふれあうことができる貴重な機会になっています。



総合「手話で話そう」



国語「手話つき読み聞かせ」



特活「じゃがいも掘り」



給食



休み時間 筆談でのやりとり



休み時間 折り紙遊び



音楽「琴を弾く準備をしよう」

地域の小中学校から本校へ

地域の難聴児童生徒の支援籍学習は、それぞれの要望に応じて行っています。11月4日(金)はグループ学習(地域の難聴児童生徒が集まって活動する)と合わせて、午前中に支援籍学習を行いました。小学生14名、中学生2名が参加しました。複数の参加者がいた学年もあり、授業では、話し合いやグループに分かれての活動などで、活発に意見交換をしていました。高学年の児童10名は、自分でオーディオメーターを操作して聴力検査をし、オーディオグラムを書く学習も行いました。



小学部4年



小学部5年



中学部1年



自分で聴力検査